

【全体概要】

富山県では主穀作経営の複合品目として果樹の栽培を推進している。特に、ぶどうは収益性が高いことから、県では水稲育苗ハウスの遊休期間を活用できる「水稲育苗ハウス等を利用した根域制限栽培技術」を開発し、その普及に努めている。しかし、ハウスの形状や品種の違いによって生育差を生じ、品質が安定しないことや、栃木県で開発された「ブドウの盛土式根圏制御栽培技術」の導入を試みる生産者もみられる。

このため、多様なハウス形態や品種に応じた生産安定技術の確立を図るとともに、主穀作との作業競合を回避できる省力技術の実用性を明らかにし、根域制限栽培ぶどうの導入・生産拡大を目指す。

新品種・新技術等の概要

水稲育苗ハウス等を利用したぶどう根域制限栽培の確立と省力技術

○検証品種

「藤稔」、「ピオーネ」、「シャインマスカット」、「ゴルビー」、「安芸クイーン」

○検証内容

- ・ハウス形態別のぶどう品種生育特性把握
- ・盛土式根圏制御栽培技術による生育特性把握
- ・省力器具、無核化1回処理、副穂利用技術



高温障害(葉焼け)

品種特性把握

主な取組内容

【検討会】

- ・実証ほの設計・成績検討会の開催
- ・果樹導入啓発研修会の開催
- ・根域制限栽培技術現地検討会の開催

【技術の現地検証】

- ・ハウス形態、ハウス内温度と生育、果実品質特性の把握
- ・盛土式根圏制御栽培の生育特性の把握と主枝育成技術の適応性確認
- ・花穂整形器、無核化1回処理技術の省力効果確認



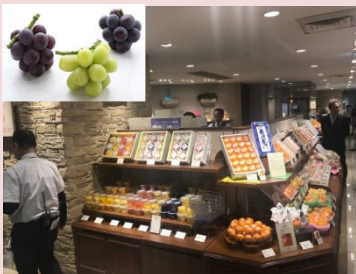
根域制限栽培技術現地検討会

【実需者ニーズの把握と先進地調査】

- ・首都圏市場、果専門店における小房ぶどう等の販売動向を調査
- ・新技術の先進地調査

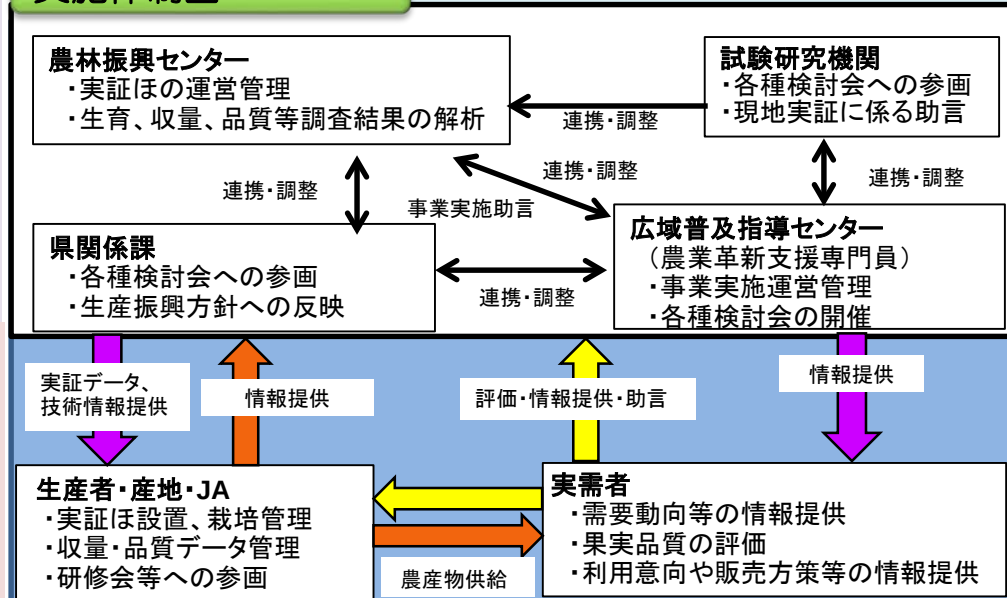
【コンソーシアム候補の形成活動】

- ・研修会等におけるコンソーシアム候補形成を検討



「サン・フルーツ」三越日本橋店

実施体制図



課題と今後の対応

- 育苗ハウスの形態(被覆期間、天井高等)によるハウス内温度と生育、果実品質の品種間差や高温障害の確認ができたことから、本栽培に適した品種選定と高温障害回避に向け技術を改善する。
- 盛土式根圏制御栽培技術では、導入1年目に樹形が完成できたことから、導入2年目の収量性を確認する。
- 省力器具、無核化1回処理、副穂利用技術については、一定の効果は見られるものの作業による差が大きいため、継続検討する。
- 「シャインマスカット」等は今後の需用拡大が見込めるため、技術の安定化を図る。